



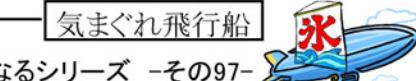
なつかしい気持ちになる季節、嬉しい再会の夏。道端でバッタリ昔の友人に遭遇したり、恩師とも呼べる人から連絡が来たり、思わず懐かしくなるような偶然がありそうです。あなたが記憶していることと、相手の記憶していることの違いにおもしろい発見がある場合もあります。過去の自分を思い出して、懐かしいような、恥ずかしいようなくすぐったい気持ちになりそうです。

Vol. 133  
アットライフハケ岳・内  
発行責任者 山内真 (P2)



## 八ヶ岳の夏、「高原へいらっしゃい☆」

「八ヶ岳高原海の口自然郷」は、1963年に八ヶ岳の裾野に広がる荒れ果てた牧場跡地に樹木を植え、整地するところから始まりました。「八ヶ岳高原海の口自然郷」のシンボルとして親しまれている八ヶ岳高原ヒュッテは、1968年に元侯爵徳川義親氏(尾張徳川家19代当主)の邸宅を移築し、翌年ホテルとして営業を開始しました。1976年(昭和51年)には、テレビドラマ「高原へいらっしゃい」(田宮二郎・由美かおる主演)の舞台としても利用されています。イギリス中世のチューダー様式(木造軸組工法2階建て・延床面積は799m<sup>2</sup>)のこの建物は、1934年東京の目白に建てられました。設計は、上野東京帝室博物館(現東京国立博物館)や日比谷第一生命館、銀座和光などを手がけた渡辺仁氏(1887~1973)です。ヒュッテ館内を見まわすと、階段の親柱などにある多くの熊の彫り物に気づかれます。熊の彫り物といえば、北海道アイヌの土産品として有名ですが、この熊の彫り物の歴史に徳川義親元侯爵が大きくかかわっているのです。義親氏は、明治維新後の生活に窮していた旧尾張藩士のために、北海道に土地を得て開拓(後の八雲村)を始めました。この八雲村の生活



## 『トビウオが飛ぶとき』気になるシリーズ -その97-

トビウオは回遊魚で、日本では4月から8月が旬です。島根県ではトビウオのことを「あご」と言い、夏を告げる魚として、県沿岸で広く漁獲されており、県民にもなじみが深く県の魚に選定されています。山梨県に住んでいると「とびうお」なんてそう使われる言葉じゃないですね。料理法もいろいろ有るようです。刺身お作り、焼き、唐揚げ、出汁さらには卵を「とびこ」といって寿司ネタにもなつているようです。漢字は魚へんに飛「??」で正にそのままであります。それではトビウオは何故飛ぶのでしょうか…? どうも身に危険が迫った時のように。天敵であるマグロ、カジキ、シイラなどから身を守るためにらしいです。飛び方は羽ばたきません、滑空するのです。しかしイルカのように水中から尾びれの力で上方向にジャンプするには90度姿勢を変えなければ滑空なりません。彼らは水面すれすれに泳ぎながら浮上し、翼となる胸びれを広げると同時に尾びれで水面をかき、前への推進力で揚力を得て離水し滑空するのです。そのため水面を強くかけるよう尾びれの下端が太く長くなっているのがトビウオのもうひとつの特徴です。トビウオの群れにカジキが襲いかかり、海上に逃げるトビウオたちをYoutubeの「BBC Life - Flying Fish」という動画で見ることが出来ます。興味のある方は、ご覧になってみてください。(@かとう)



「八ヶ岳ヒュッテの夏」撮影:Jプレス12.8.22

改善に尽力していた義親氏は、大正10年の洋行の時にスイスで熊の彫り物の土産と出会い、これを八雲の土産品として取り入れようと思い立ち、いくつもの彫り物を持ち帰って村人や近くのアイヌの人々に伝えたそうです。それが長い時を経て北海道の土産品として定着したといわれています。何気なく見過ごしがちな、ヒュッテの熊の彫り物にはこんな歴史が隠されていたのです。

## 遊歩道を歩いて八ヶ岳高原音楽堂へ

自然と環境に調和した美しい建築物、八ヶ岳高原音楽堂の誕生の契機となつたのは、1974年に八ヶ岳高原ヒュッテの前庭で行われた“八ヶ岳高原レコードコンサート”でした。



「八ヶ岳高原海の口自然郷」の別荘地にはもともと音楽好きなオーナーが多く、互いに持ち寄った自慢のレコードによる鑑賞会が開かれていました。翌年には「大自然の中で生の演奏を」との声が高まり、1975年8月、初めてのサロンコンサートが開かれたのです。以来、国内のトップアーティストはもとより、海外からもリヒテル、アシュケナージなど、そうしたる音楽家がこの地を訪れました。そして1988年夏、「八ヶ岳高原音楽堂」が誕生。

こけら落しはリヒテル音楽監修の「八ヶ岳高原音楽祭'88」。彼の監修する音楽祭はフランスの「ツール音楽祭」、モスクワの音楽祭「12月のタベ」について、世界で3つ目のもの。スマーナ弦楽四重奏団やキース・ジャレット、クロノス・カルテットなどのアーティストもこの音楽堂で見事な演奏を披露しています。

太陽に一番近いさくらんぼ  
「岩原果樹園」

八ヶ岳の美味しい水と豊かな日差し、そして清涼な空気に恵まれた「岩原果樹園」がサクランボの収穫時期を迎えていた。甘酸っぱい初恋の懐かしい味がする高砂、糖度



20%以上の人気の佐藤錦、粒が大きくて果肉がしっかりしている紅秀峰など、小学生以上2,000円、未就学児以下1,000円で40分間食べ放題☆。サクランボ狩りは空いている平日の午前中がお勧め、1本の木にこだわらずに鳥のように枝から枝を渡って美味しい木を見つけ、日差しの豊かな高い枝のサクランボを食べるのがコツらしい。赤い帽子を被っているアンダーさんが、美味しいサクランボを教えてくれる。育てた人たちの優しい気持ちが詰まっている「岩原果樹園」のサクランボは、贈り物にも最適です。

## ☆詳しいお問い合わせは

「岩原果樹園」〒408-0004 山梨県北杜市高根町堤 669-2  
TEL:0551-46-2067 携帯電話(日中)090-8178-8031

南清里(レインボーライン沿い標高830m) 6月20日~7月10日頃  
清里(141号線沿い標高1060m) 7月8日~25日頃

入園受付:AM9:00~PM3:00 売店:PM5:00閉店

※八ヶ岳の地形と標高差を生かして、2か所の農園で

さくらんぼ狩りをお楽しみいただけます。(期間中は無休です。)



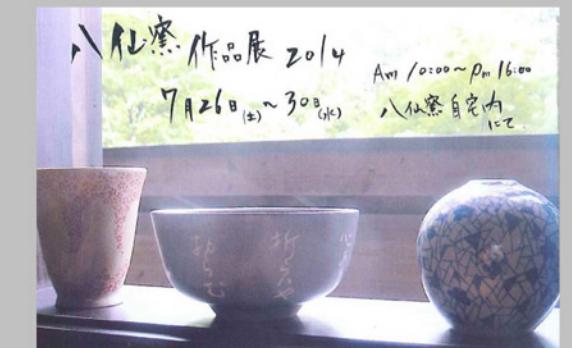
## 感謝

母が五年、私が十年と一ヶ月甲斐大泉駅で働かせていただきました。七月からは観光協会が運営することになり、私は六月末で辞めることになりました。ちいさな、小さな甲斐大泉駅を応援して下さり、心から感謝しております。大泉駅のためにわざわざ乗車券を購入して下さり、また書籍や俳句、そしてお花の苗などを下さったり、本当にありがとうございました。おかげ様で、手書きの料金補充券は年間千枚ほど発行して、支社から優秀であると評価され、乗車券も定期券を除けばダントツの売り上げで良くやてくれたと評価していただきました。大泉駅で働かせていただいた私の一番の財産は皆様との出会いです。十年分のページを振り返れば、楽しいおしゃべり、数々の思い出が浮かんで参ります。幸せな十年間を本当にありがとうございました。

いまの私の心境は、新見南吉さんの『おじいさんのランプ』です。七月からは新しい職場で正社員として働くこととなりました。決して若くない私を採用してくれた会社に心から感謝して、恩返しのつもりで頑張ります。私は子どもの頃から『マザーテレサになりたい』と思い描いてきました。我ままいっぱいの未熟者ですが、その夢に向けて努力して行きます。

一番の良薬は笑うことです。そして、ふくらはぎを良く揉んであげることが、最良の健康法だと申します。いつまでも少年少女の気持ちで、いっぱい八ヶ岳の自然に抱かれて、お過ごし下さいませ。いつまでも、皆様がお元気でられますように、心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

甲斐大泉駅 影沢 礼子



八仙窯作品展2014 7月26日~30日 AM10:00~PM16:00 自宅にて



編集後記 ◇ 悲しいことも、口惜しいことも、悔やんだことも、反省することも…いっぱい、いっぱいあるけれど、一つでも嬉しいことがあれば、全てが消えていく…そんな力が笑顔にある。前を向いて、まだまだこれから…「後悔を先に立たせて歩いてみれば 杖を突いたり転んだり」なんて…もうすぐ夏です☆。じゃがいも通信編集長